

自衛隊の駐屯地等が存在する有人国境離島地域(13地域)の位置図



○ : 自衛隊の駐屯地等が存在する有人国境離島地域

地域	離島	自衛隊
利尻・礼文	礼文島	礼文分屯地(陸自)
奥尻島	奥尻島	奥尻島分屯基地(空自)
佐渡	佐渡島	佐渡分屯基地(空自)
小笠原諸島	父島	父島地区(海自)
	硫黄島	硫黄島地区(海自) 硫黄島分屯基地(空自)
	南鳥島	南鳥島地区(海自)
見島	見島	見島分屯基地(空自)
対馬	対馬	対馬駐屯地(陸自) 対馬地区(海自)
	海栗島	海栗島分屯基地(空自)
壱岐島	壱岐島	壱岐地区(海自)
五島列島	福江島	福江島分屯基地(空自)
甌島列島	下甌島	下甌島分屯基地(空自)
奄美群島	奄美大島	奄美地区(海自) 奄美大島分屯基地(空自)
	沖永良部島	沖永良部分屯基地(空自)
沖繩諸島	沖縄島	那覇駐屯地(陸自) 那覇地区(海自) 那覇基地等(空自)
	久米島	久米島分屯基地(空自)
八重山列島	与那国島	与那国駐屯地(陸自)
宮古列島	宮古島	宮古島分屯基地(空自)

陸上自衛隊 与那国駐屯地（沖縄県与那国町）

○ 南西地域の防衛態勢を強化するとの考え方の下、常続的な監視体制の整備のため、平成28年3月に与那国駐屯地を開設し、沿岸監視部隊等を配置。

＜与那国駐屯地とは＞

- ・沖縄県与那国島に所在する陸上自衛隊の駐屯地。
- ・駐屯地には、沿岸監視部隊を主体とする約160名の隊員が勤務。
隊員、家族を合わせた人数は、与那国島の人口の約2割に当たる約250名。
- ・自衛隊員と島民の日々の交流等を通して、地域社会にも貢献。



（参考）自衛官OBの離島定住

- 50歳代半ばで退職（若年定年制）した自衛官OBは、地方公共団体の防災や危機管理の分野等で活躍。
- そのまま地方（離島）に定住する自衛官OBの同様の活躍は、有人国境離島地域の保全にも寄与。

我が国周辺海域における情勢及び戦略的海上保安体制の構築

我が国周辺海域における情勢

我が国周辺海域を取り巻く情勢は、尖閣諸島周辺海域における外国公船及び外国漁船による領海侵入、外国海洋調査船の活動の活発化、小笠原諸島周辺海域等における外国漁船による違法操業等、一層厳しさを増している。



領海警備を行う巡視船

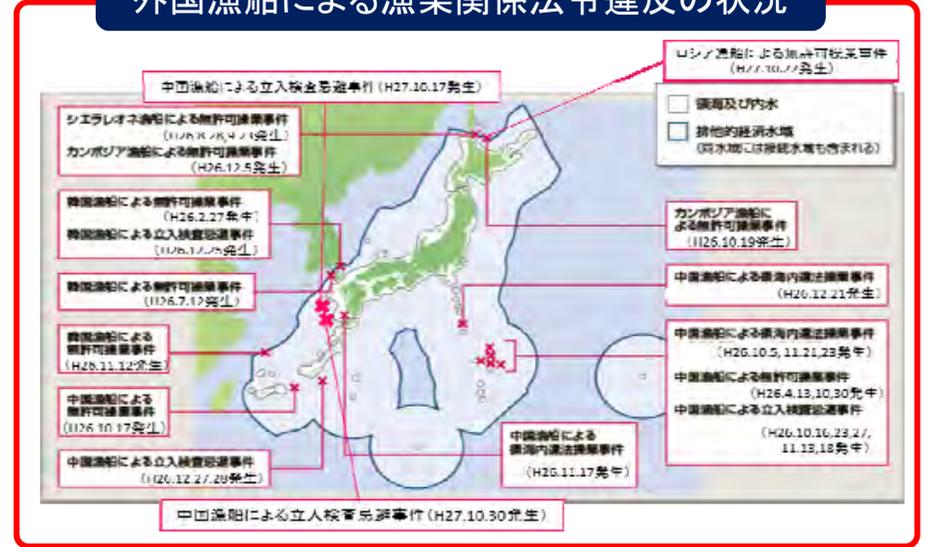


中国海洋調査船による海洋調査



中国サンゴ漁船を追尾する巡視船及び搭載艇

外国漁船による漁業関係法令違反の状況



戦略的海上保安体制の構築(平成29年度事業)

我が国周辺海域における情勢を踏まえ、「海上保安体制強化に関する方針」に基づき、海上保安体制の強化を推進し、戦略的海上保安体制を構築。

石垣の拠点機能の強化



小笠原の拠点機能の確保



規制能力強化型巡視船 (PS型)



(総トン数 約200トン・全長 約45メートル)

新型ジェット機



ファルコン2000LXS (全長 約20メートル)

自衛隊の部隊の増強等や装備品の能力向上等

有人国境離島地域における部隊の増強及び装備品の能力向上等 (平成29年度事業)

○ 有人国境離島法、防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画に基づき、部隊の増強等や、装備品の能力向上等の取組を推進。

○ 有人国境離島地域における部隊の増強等

・ 奄美大島への警備部隊等の配置

・ 宮古島への警備部隊等の配置

・ 固定式警戒管制レーダー装置J/FPS-7の整備
【見島、海栗島、沖永良部島、宮古島】

・ 航空警戒管制多重通信網の整備
【下甕島、奄美大島（奄美大島分屯基地・湯湾岳）、久米島】

・ その他自衛隊施設の整備
【新島、佐渡、見島、福江島、下甕島、沖永良部島、
硫黄島、奄美大島、宮古島】

○ 有人国境離島地域における装備品の能力向上

・ 海峡監視用レーダーの更新【下対馬】



倉舎



整備工場



生活関連施設



燃料施設

部隊配置に関連する主要施設
(イメージ)



固定式警戒管制レーダー
(F P S - 7)

港湾等の整備の例

【水産庁・国土交通省・地方公共団体】 港湾等の整備

○ 有人国境離島内の港湾、漁港、道路及び空港の整備を通じて、有人国境離島地域の保全を図る。

島根県隠岐の島町の例



■ 港湾の整備（西郷港）



■ 漁港の整備（西郷漁港）



■ 道路の整備（国道485号）



■ 空港の整備（隠岐空港）

写真の出典：島根県HP

【海上保安庁】 航路標識の防災対策

○ 領海、排他的経済水域等の保全等に関する活動に利用される有人国境離島地域内の港湾、漁港への入港に必要な航路標識の防災対策・長寿命化対策を実施し、発災時においても海上輸送ルート of 安全確保及び船舶交通の被害の防止を図る。

【航路標識の耐震補強】

切迫する巨大地震・津波に対するリスクの低減



■ 補強前



■ 耐震補強の実施



■ 補強後

【航路標識の耐波浪補強】

激甚化する気象災害に対するリスクの低減



■ 荒天時の波浪



■ 基礎部補強を実施



■ 耐波浪型灯器整備

【広域の見地からの関係機関の連携】

平成12年 三宅島噴火災害における関係機関連携による災害対応

- 三宅島には、三宅島ー本土の定期貨客船が就航可能な港が3つ(1港湾、2漁港)存在
- 平成12年の三宅島噴火災害時には、本土関係機関が連携し、三池港及び阿古漁港を利用して全島避難を実施。



平成12年 三宅島火山噴火

阿古漁港における避難の様子



阿古漁港(第4種漁港)



伊ヶ谷漁港(第1種漁港)



三池港(地方港湾)

島の東西に港湾・漁港が整備
→海象によらず就航率向上に寄与



三宅島



ドクターヘリによる
エプロンの活用



三宅島空港

災害対応に係る広域の見地からの関係機関連携

- 地方公共団体においては、他機関の役割を地域防災計画に記載し、災害対応に係る連携体制を構築。
- 自衛隊では、地方公共団体が計画する総合防災訓練に参加して、離島における突発的な大規模災害への対処について実動による訓練を実施。訓練は、港湾や空港においても実施。

【東京都】 地域防災計画における連携体制構築

東京都、三宅村、自衛隊、海上保安庁等の本土と離島の関係機関が連携し、平成27年度東京都・三宅村・御蔵島村合同総合防災訓練を実施。

主な連携機関と役割

第三管区海上保安本部	緊急輸送(人員及び救援・災害復旧資材の輸送)
陸上自衛隊(第1師団)	災害派遣の計画・準備・実施 (人命又は財産の保護のために緊急に行う必要のある応急救援又は応急復旧)
海上自衛隊 (横須賀地方総監部)	
航空自衛隊 (作戦システム運用隊本部)	



訓練に参加した
海上保安庁巡視船と自衛隊艦船

【防衛省】 離島統合防災訓練(平成28年度)

沖縄県と自衛隊の本土の部隊が連携して訓練を実施。

- 想定災害 沖縄県八重山諸島南西沖地震
- 訓令概要
 - ・ 情報収集・伝達訓練
 - ・ 部隊、被災者及び救援物資等の海上・航空輸送訓練
 - ・ 洋上における捜索救助訓練
 - ・ 輸送艦「おおすみ」での応急医療訓練



沖縄電力電源車の揚陸訓練
(西表島大原港)



空自C-130によるDMAT輸送訓練
(石垣島石垣空港)

海上保安庁による災害対応の事例

○海上保安庁では、離島における災害に対して、巡視船・航空機の機動力を活かし、被害状況の調査、被災者の救出、人員・物資の輸送等に貢献。

伊豆大島土砂災害への対応(平成25年)



潜水士による行方不明者の捜索



医師等の搬送



潜水士による行方不明者の捜索

口永良部噴火災害への対応(平成27年)



噴火状況(測量船「拓洋」撮影)



おにぎり等を配布する海上保安官



巡視船による避難の状況

与那国島における台風21号による災害への対応(平成27年)



被害の状況(当庁航空機により撮影)



被害の状況



巡視船による人員の搬送



ヘリコプター内での救急救命措置